

卒業生・保護者と大学の協働型キャリア支援

● 帝塚山大学



帝塚山大学 副学長
岩井 洋

平成22年度、本学の取り組み「卒業生・保護者と大学の協働型キャリア支援」が文部科学省「大学の就業力育成支援事業」に選定された。

この取り組みは、卒業生・保護者を貴重な教育資源としてとらえ、大学と連携・協働することで、学生の就業力の育成をめざすものである。ここでは、本学の取り組みを簡単に紹介する。

1 「取材型インターンシップ」の開設

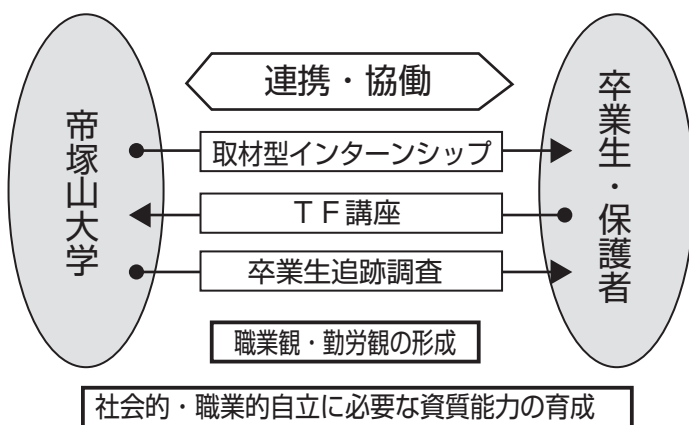
「取材型インターンシップ」は、従来のインターンシップとは別に、卒業生・保護者の就業先等で学生が就業体験をするともに、業務内容や現場の状況取材・報告するものである。本年度より、正課科目（選択）として開設され、すでに第一期の学生がインターンシップを開始している。

本インターンシップの成果物は、受入先の状況により、写真入りレポートの作成からビデオ映像までさまざまである。ビデオ映像については、近隣ケーブルテレビの技術協力を得て、番組の一部として放映されるとともに、本学のeラーニング・システムTEESでも公開される予定である。

本インターンシップでは、就業体験に加え、取材とコンテンツ作成の能力を育成するとともに、卒業生・保護者の就業状況を学生に伝えることをめざす。

2 「TF (Tezukayama Family) 講座」の開設

「TF講座」は、卒業生・保護者を講



師とする、オムニバス形式の講義であり、本年後期より、全学生を対象に正課科目（選択）として開設された。すでに多くの卒業生から講師の申し出があり、充実した科目内容となる予定である。また、本講座の講師等のかたちで、本学の教育に協力してくださる卒業生・保護者の方々に登録し、「サポーターズ・バンク」（仮称）を設立する計画である。



取材型インターンシップ



TF講座

的としている。

3 卒業生追跡調査の実施

一般に、大卒者の3年後の離職率は30%を超えるといわれる。これまで、本学では卒業生の離職率等に関するデータをもっておらず、その実態が把握できていなかった。そこで、過去5年間にわたる全卒業生を対象に、郵送アンケートにより、卒業後の就業状況に関する調査を実施した。その結果については、現在、分析中である。同調査を継続的に実施する予定であり、その成果を本学の教育活動に生かすとともに、学生の就業力の育成に活用していきたい。

本学の母体である帝塚山学園は、幼稚園から大学院までを擁し、本年4月、創立70周年を迎えた。本学園は在校生・卒業生・保護者・教職員を「帝塚山ファミリー」と考え、その絆を強めようとしている。本取り組みは、まさに本学園の理念を具現化するものであるとともに、「帝塚山ファミリー」によるキャリア支援であるといえる。